やっぱりやることバイ

第5回職場新聞活動者会議で決意

「編集体制の確立ということも重要かばってん、やっぱりまず自分がやることが先ばい」――第五回職場新聞活動者会議の結論は、こう出た。

会議は九～十の一泊二日の日程で、玉名の三池保養所で開催。集まったのは、二十五人だった。

参加予定者が何のためか四人も不参加（三川指導部）するなど、大いに戸まどわせたが、それでも集まった者は二日間それこそ、職場新聞活動をいっそう発展させるにはどうすればよいか、真剣に話し合い、とにかく何としてでも出すべきだ、ということに決意を固めた。

全参加者は、その命を長く維持しながら着実に歩み続けていく新聞の特徴は、職場の小さないろんな問題や要求がひき出されていること。一と二の別なく職場仲間の消息が伝えられていること――などにあることを改めて知った。

反対に、停滞してしまった新聞はそのようなことがとかく見落とされて、もえあがる闘争を追いかけるのに急であるとの欠陥に思い当たりもした。

このような認識の上に立って編集体制づくりに努力し、だからといってそれに寄りかかるのでなく、逆に、まず自分たちが実践することによってこそ、その体制も強まるようにあるべきだということが確認され、「やっぱりやることが先」となったのだった。

これからの足どりは、きっといきいきとしてくることだろうことを物語っているが、これを今後長く持続してゆきたいものである。

×

なお、その後各指導部ではぞくぞく職場新聞が発行され、この会議が一定の実りをもたらしていることを物語っているが、これを今後長く持続してゆきたいものである。

四山職場6分会新聞＝とりで＝

三井独占の責任追及

三池のCO闘争を支援

大会の決議

日本社会党第三十七回定期全国大会中の去月三十一日、次の〝三池のCO闘争を支援する決議〟を行い、今後もひき続き三池労組の命を守る闘いを積極的に支援してゆくことを誓った。

三池のCO闘争を支援する決議

昭和三十八年十一月九日、三井三池炭鉱三川鉱における炭じん爆発によって、生けるしかばねとして、二十四才から三十三才までの十年間、三井資本と国家独占を告発し続けた、宮島重信君は去る一月六日熊本大学附属病院において、あたら青春の生命をたったのであります。

植物人間としての診断を主治医よりなされ、十年もの間一言も発することなく生命を奪われた宮島青年をはじめ多数の労働者がこの世を去り、また現在おびただしい数にのぼる労働者がCO患者となり、人間としての能力を奪われたのであります。

このことについて、その責任を三井資本は取ったでありましょうか。それどころか、組合分裂をテコにしながら、不法・不当きわまる差別支配のなかで、職場闘争を弾圧し、度重なる災害をひき起こしても団体交渉を拒否するなど、労働者の要求をハネのけ、増産のためには、労働者の犠牲もかえりみず、金のかかる保安対策は一切見むきもせず、ますます人間無視の合理化を強行しています。つまり、三十八年大爆発以後の三井独占資本の手による殺りくは、実に九十三名にのぼるのであります。

三井の歴史はいまさら言を待つまでもなく、労働者殺りくの歴史であります。炭鉱労働者の生命を勝手気ままに奪った歴史であります。そしていまもそれを極めて巧妙に続けています。

さらに公害、職業病等全市民的に拡大し、権力をも手に握り、三井の責任を免責しておるのであります。

わが社会党は、この非道きわまる三井独占資本の責任追及と、すべての責任の根元を明らかにし、徹底的追及を通して人間として生きる権利を確立するまで全労働者階級の先頭にたって闘うという、九州ブロック会議の決議を支持し、全党的立場に立って次の項目について具体的に闘い抜くことを、全国大会の名において誓うものである。

①責任追及
②保安の完全確立
③CO患者・遺家族の一切の補償確立
④労働者の人間的権利の確立

一九七四年一月三十一日
日本社会党第三十七回定期全国大会

大地評が臨時大会開催

田中内閣の打倒へ

春闘で地場賃金引上げ

大牟田地評は十五日臨時大会を開いて、地評として春闘にのぞむ態度をきめたが、特に①最低賃金10財政の確立などである。

また大会は、「春闘」にひきつづいて、参議院議員選挙で保・革逆転を勝ち取り、田中内閣を打倒するために闘う」大会宣言を発表し、決意を示した。

各労組の賃上げ要求は次の通り

市職労	四〇、〇〇〇円
化学統一要求	三五、〇〇〇円
全九電労組	五三、〇〇〇円

そのほか、全自労一日千五百円、全逓では内部に四万五千円～五万円の意見が強く、教組は三万円以上の要求は確実と見られ、合同労組は三万円以上の要求か。

なお化学関係労組は、物価手当毎月本人五千円、家族一人三千円の六カ月分を一時金として払え――との要求も出してゆくと。

▼…去る六日～七日の両日、三池労組は炭労九州地方本部の統闘行動の一つとして、産炭地向けに石炭政策転換要求の意義をアピールするため、本部役員らを同乗させてニュースカー〝はたかぜ〟を筑豊地区にくり出した。

もう炭鉱はかげを没し、幾らかボタやまが昔をしのばせているに過ぎず、自民党政府がすすめてきたエネルギー政策が、いかにやまをあらしたかを見せつけた。

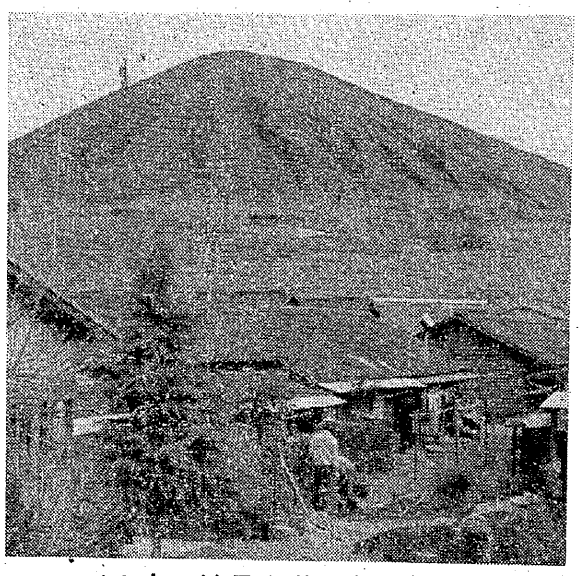
独占の強化目指す

会社、水道分離のハラ

会社側は去月末、これまで続けてきた水道事業を分離独立させ、〝有明水道株式会社〟をつくる方針のあることを明らかにした。

会社側はその理由に、①専用水道ではもう限度があり、市民の要求にこたえることができない。②石炭第五次政策上から、設備投資ができない――として、ことし四月から分離するハラ。

こまかい点については次号に詳述するが、工業用水・上水道についての会社の説明による計画では、一日の給水量十四万五千トンで、うちわけは熊本県側五万五千トン、福岡県側工業用水八万トン、大牟田市上水道用（飲料）一万トンとなっているものの、深く問題点を追及してゆけば、そのための設備などの資金は国や県・市などの自治体に出させ（つまり国民の負担）、水利権だけはちゃんと三井独占で握る仕組みになっている。その裏に従う労働者の労働条件もひき下げられることは必至だし、まさに問題は重大だ。



ボタ山の遠景と荒れた元社宅

田中内閣をやめさせねば……

青森　柴谷郁子

宮島さんが亡くなられましたね。本当に驚きました。商業新聞にはチョッとしか載せてないので見のがす所でした。

そのあと、社会新報には詳しく書いてあったのですが。

CO裁判がこれからだというとき亡くなられて、本当に残念です。

三井は、組合葬の会場さえ使えなくしたとか。まったく誠意がない。いいえ、人間性のない三井に腹が立ちました。

どこまでも搾取する資本家。私たちはやはり、社会主義社会を目ざしていかなければならないということを、痛感しました。

これからが本当の闘いですね。お互いにがんばりましょう。

私たちの組合（全林野）にも、一月二十六日に、昨年の春闘に対する処分がでました。一般組合員は訓告。分会委員長は戒告。最高は停職十二カ月の内容です。

国会では、田中首相は、公務員の政治活動が黙認されているが、国家公務員法が骨抜きにされているので調査するように、といった。何から何まで改悪しようとする田中内閣を、今年こそはやめさせなければ、と思います。そのため、参議院選に勝利しなければ……。

今年の春闘は、もうスタートしました。お互いにがんばりましょう。

×

石原まさ子さんに寄せられた便りで、柴谷郁子さんの住所は「青森県西津軽郡深浦町字中沢」です。

宮島さんの御冥福祈ります

宗像　小柳芳子

久しく御無沙汰致しておりますが、組合活動に、内職にお励みのことと思います。

私共が荒尾を去りまして早や三年、荒尾のことが懐しく思い出されます。

先日ラジオと新聞にて、宮島さんの御逝去を知りました。十年の永い間意識不明のまま、病院のベッドに横たわりながら、CO闘争を無言のうちに支えてこられた宮島さんの死を聞いた時、胸がつまり涙がこぼれました。どんなにお苦しかったことか。これでようやく、宮島さんも楽になられたのではないかと思います。

心から御冥福をお祈りいたします。すぐにでもおまいりしたいのですが、思うにまかせません、何時か必ずおまいりさせていただきます。

同封のお金は心苦しいですが、宮島さんにお花の一本でもお供えいただきたく思います。

後のことが大変だと思いますが皆さん頑張って下さい。

心から宮島さんの御冥福をお祈りいたします。御主人様によろしくお伝え下さい。

×

荒尾市倉掛の木永安子さんへ寄せられたお便りで、なお小柳芳子さんのお住居は「宗像郡福間町花見区井尻」です。